



京都大学防災研究所
Disaster Prevention Research Institute
Kyoto University

若手研究者海外派遣

2025OY-01

日本とオーストリアにおける 防災と自立・分散型のインフラ整備の 複合的施策に関する比較研究

令和8年5月

May 2026

研究代表者 黒澤 宗一郎

Coordinator Soichiro Kurosawa

若手研究者海外派遣（課題番号：2025OY-01）

課題名：日本とオーストリアにおける防災と自立・分散型のインフラ整備の複合的施策に関する比較研究

研究代表者：黒澤 宗一郎

所属機関名：京都大学大学院情報学研究科

所内担当者名：矢守 克也

派遣期間：令和8年1月10日～令和8年3月11日

受入機関：Institut für Raumplanung, Umweltplanung und Bodenordnung, Universität für Bodenkultur Wien

受入研究者：Gernot Stöglehner

研究及び教育への波及効果について

この在外研究は報告者の博士後期課程における研究活動（社会構成主義のナラティブ理論に基づく「物語の導入と交代」という作業仮説を基軸とした共同体における防災課題の解決手法に関する考察）の中核を成している。黒潮町とオーストリアにおける防災と脱炭素政策に関する比較を行う本研究は、社会課題の複合的解決（防災×脱炭素×福祉）の理解促進に対して、脱炭素先進国・オーストリアがどのようにして脱炭素政策を共通鍵とする社会課題解決を図っているのかという物語を紹介することでどのような効果が見られるのかを検証する研究活動の第一段階にあたる。

研究報告

(1) 目的・趣旨

本研究は、高知県幡多郡黒潮町における「防災×脱炭素×福祉」の取り組みとオーストリアにおける脱炭素の取り組みを比較し、防災や社会福祉、環境保護といった諸領域との連動に基づく自立・分散型のインフラ整備の進展に必要な関係者の協働・関与について考察することを目的としている。

(2) 研究経過の概要

報告者は2026年1月11日～同年3月10日（1月10日及び3月11日は移動日）に、ウィーン環境大学の空間計画・環境計画・土地再編研究所（Institut für Raumplanung, Umweltplanung und Bodenordnung, Universität für Bodenkultur Wien）に滞在し、同研究所所属のGernot Stöglehner教授の指導の下、オーストリアにおける脱炭素や空間計画に関する文献調査を進めつつ、当該分野の研究者や実務者へのインタビューを実施した。空間計画やエネルギー転換に関するプロジェクトの進行における行政や住民との関わり方について情報を収集した。

(3) 研究成果の概要

滞在先機関の研究者へのインタビューからは、環境保護やエネルギー転換の分野と他領域の連携は脱炭素先進国・オーストリアであっても順調ではなく、またこれらの分野のプロジェクトを進展させる際には住民をよりよく知る行政職員や消防団員の協力が不可欠であること等が示唆された。また、フィールドワークとしてはニーダーエスターライヒ州Langau（オーストリア＝チェコ国境近くに位置する人口約700人の自治体）を訪問し、地域熱供給組合長と町長との面談を実施した。地域熱供給事業の成長には住民側が享受できる実利や燃料を供給する農家側が享受できる実利が深く関わっており、環境保護やエネルギー転換という理念的な動

機のみが推進力となったわけではないことが強調されていた。また、地域におけるエネルギー転換や脱炭素施策の動機には日々の生活の快適さという実利が重要な位置を占めていることを把握された。自治体としてのエネルギー転換の推進においても、独自の財源が少ないが故にエネルギー面等での自立を図る志向が原動力になっていることがわかった。エネルギー政策は耕作されていない農地や林地の活用といった複数領域と関わるものであるため、住民側の実利面も意識した政策展開が重要であることがわかった。

(4) 研究成果の公表

本研究研究の成果については 2026 年 9 月開催の国際総合防災学会（International Society for Integrated Disaster Risk Management）において報告予定である。